

報道機関各位

2016年11月24日

脳卒中後遺症の麻痺軽減を目指したボツリヌス毒素製剤に関する 徳島大学とのライセンス契約の締結について

塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」）は、国立大学法人徳島大学との間で、乳児ボツリヌス症原因菌由来の高度精製 A2 型ボツリヌス毒素（以下、「本剤」）に関するライセンス契約を締結致しましたのでお知らせいたします。本契約締結に伴い、塩野義製薬は、全世界における本剤の開発・製造・販売を進めてまいります。

本剤は、大阪府立大学 小崎 俊司（こざき しゅんじ）名誉教授（現 徳島大学客員教授）と、徳島大学 医歯薬学研究部 梶 龍児（かじ りゅうじ）教授の研究から見いだされた新規 A2 型ボツリヌス毒素です。ボツリヌス毒素は、ボツリヌス菌が産生する天然のたんぱく質であり、アセチルコリンの作用を抑制することにより、筋肉の過度な収縮を抑えることが知られています。本剤は、標的部位以外に拡散しにくく、また中和抗体ができにくいという特徴を有しており、脳卒中後上肢・下肢痙縮（けいしゆく）¹に対する治療への効果が期待されます。

現在日本では、脳卒中の有病者数が約 280 万人と推計²されています。その約 40%に運動障害の一つである痙縮が発生し、手指が握ったまま開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状がみられます。痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まり関節の運動が制限され、日常生活やリハビリテーションの障害となることもあります。ボツリヌス治療は、このような痙縮に対し、標的患部にボツリヌス毒素を投与することにより筋肉の収縮をやわらげ、リハビリテーションの実施の助けとなる治療法の一つとして確立されています。

塩野義製薬は、「創薬型製薬企業として社会とともに成長し続ける」ことを経営目標として掲げた中期経営計画 SGS2020 の中で、「個人が生き生きとした社会創り」を当社が取り組むべき社会課題の一つと認識し、「生きにくさ」から人々を解放し、個人の本来の能力を発揮して活躍していただくためのサポートを目指しています。その具現化に向けた革新的な新薬の継続的な創出のため、自社の創薬研究に加え、国内外のアカデミアや企業との連携を一層推進し、今後も世界中の皆さまの健康と QOL の改善に貢献できるよう努力してまいります。

以上

【お問合せ先】

塩野義製薬株式会社 広報部

TEL：06-6209-7885 FAX：06-6229-9596

¹ 筋肉が緊張しすぎて、手足が動かしくかかったり勝手に動いてしまう状態のこと

² 厚生労働省班研究より